

事務局だより

会議報告

平成22年10月1日より平成23年3月31日まで
第3回理事会

第3回理事会

月日…平成23年2月24日
場所…主たる事務所
出席…理事・監事
決議事項…

- ① 助成事業規程の一部変更の件
- ② 会員規程の一部変更の件
- ③ 平成22年度助成事業費の増額と新規追加の件
- ④ 自平成22年4月1日至平成23年3月31日に係る補正予算の件
- ⑤ 自平成23年4月1日至平成24年3月31日事業計画・予算の件
- ⑥ 顧問辞任および委嘱の件
- ⑦ 30周年記念事業準備資金取扱要領と積立ての件
- ⑧ 助成事業準備資金取扱要領と積立ての件

報告事項…

- ① 自平成22年6月1日至平成23年2月23日の理事長および専務理事の職務執行の報告
- ② 会員数の報告

会員数報告

(平成23年3月31日現在)

賛助会員	50件
団体・法人会員	25件
個人会員	1,083名
合計	1,158件

平成23年度会員証および特典パンフレット

平成23年度の会員証は6月下旬にお届けいたします。平成22年度会員証は6月30日まで有効ですのでご利用いただけます。

新入会員ご誘致のお願い

多くの方に世界遺産糸の森の保存にご理解ご協力をいただきたく願っております。新入会員のご誘致をよろしくお願いいたします。同封の「入会案内パンフレット」をご利用ください。

ご寄付のお願い

平成22年度も多くの皆様にご寄付をいただき、糸の森の整備・神社建造物の修復を実施することができました。ありがとうございました。平成23年度も引き続きましてご寄付をよろしくお願いいたします。同封の振込用紙をご利用ください。

◆ 会員規程変更の報告

2月に開催の第3回理事会におきまして、左記の通り会員規程の一部変更が承認されましたのでご報告いたします。平成23年度より適用されます。

「会員から納入された会費は、公益目的の事業に充てるものとする。その総額の80%を超えない範囲で、財団の管理費に充てることのできるものとする。」

下鴨神社だより

- 4月29日 市民植樹祭 (午前9時～)
- 5月3日 流鏝馬神事 (午後1時～)
- 5月12日 御蔭祭 (午前9時～)
- 5月15日 賀茂祭／葵祭 (午前11時40分～)
- 6月11日 螢火の茶会 (午後5時～)
- 7月21日～24日 みたらし祭 (午前5時半～)
- 8月7日 矢取り神事 (午後6時半～)
- 9月12日 名月管絃祭 (午後6時半～)



糸の森ぐらぐらり第3回
文人、糸の森納涼に遊ぶ
糸の森NEWS／催事案内

編集・発行

公益財団法人
世界遺産賀茂御祖神社境内糸の森保存会事務局
〒606-0807 京都市左京区下鴨泉川町59 賀茂御祖神社内 ☎075-781-0010
www.eonet.ne.jp/~tadasunomori-z

糸の森

題字
賀茂御祖神社
新木直人宮司

糺の森財団

理事 奥 正之

(株)三井住友銀行 頭取



私と下鴨神社とのご縁は、10歳のとき、父の転勤で信州上田より京都へ移り、神社と賀茂川を挟んで反対側の小山に住んだ時に始まります。その後、京都大学在学中に、神社の北、下鴨東高木町に転じましたが、境内を流れる小川のせせらぎでの水遊び、糺の森の時代劇のロケ見物、元旦の初詣、葵祭のエキストラ等、懐かしい思い出が一杯詰まっています。まさに、私の青春時代は、下鴨神社とともに歩んできたことになりました。

古代山背原野の植生を遺している糺の森は、私が京都を離れた後、世界文化遺産となり、なおいっそう、その名が広がりましたが、古狸が住んでいて、空から天狗が飛んできそうな野性味のある場所という印象は今でも変わっておりません。それだけに、糺の森の保存は、大変意義深いものであると考えております。

何卒、皆さま方におかれましては、さらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

文人、糺の森納涼に遊ぶ

糺の森財団 理事・学術顧問 坂井輝久



「京都下加茂糺の森勝景」(五雲亭貞秀)

京都の夏は暑い。焼けつく鍋底にいる思いがする。冷房がなかった時代は、どこか涼みに行かないわけにはいかなかったであろう。なのに、じつと暑さに耐えている人を見ると、つい嫌みの一つも言いたくなるのも道理である。

丈山の口が過ぎたりタサズみ

このように詠んだのは俳人で画家の与謝蕪村である。丈山とは京都・洛北の一乗寺に詩仙堂(凹凸窠)を構えて隠棲した江戸初期の文人、石川丈山のことである。丈山は晩年、出身地の三河に帰りたいと徳川幕府に願い出たが、京都所司代板倉重宗が許さず、憤慨して詠んだ和歌がよく知られている。

わたらじな瀬見の小河の

浅くとも

老いの波そふ

かげもはづかし

この丈山の歌に対して、蕪村は「つい怒りに口がすべったのだろうが、夕涼みにでかけられず、お気の毒」と皮肉ったのである。というのも、当時、京都の涼みの場所といえば、三条や四条あたりの鴨川の河原と、瀬見の小川も流れる糺の森が人気スポットであったからである。



「都林泉名勝図会」

糺の森 NEWS

発行所 公益財団法人
世界遺産賀茂御祖神社境内
糺の森保存会事務局
www.eonet.ne.jp/~tadsumonori-z

助成事業

平成22年度は総額一億六七五万円を助成
**糺の森財団は平成22年度に
実施する助成対象事業を
決定しました。**

ナラ枯れ防除計画

京都のみならず全国的に被害が拡充しているカシノナガキクイムシ（カシナガ）によりナラ枯れが枯死する現象、いわゆる「ナラ枯れ」が糺の森においても被害が拡大している。

京都府立大学及び近畿大学の指導の下、調査を行った結果、すでにアラカシ47本、シイ18本、シラカシ12本、シリブカガシ14本の計91本の被害が確認された。これらの樹木の中には隣地境界沿いや建物、参道に接する樹木もあり、倒木や枯れ枝の落下等の危険性を考慮した対応策が糺の森整備委員会（委員長上田正昭京都大学名誉教授）によって策定された。

既に下鴨神社によって、被害を受けていない健全な樹木への防除対策として幹にビニールを被覆し、カシナガの穿入を防ぐ対策を進め、ナラ枯れ被害の対象となるブナ科樹木1017本の内、約7割が対策を

完了している。この対策は、カシナガが新しい樹木へ移動を開始する6月までに完了させる。

カシナガの穿入を受けている樹木については、危険性の高いものは伐倒処分。カシナガの被害が軽微な樹で、生存の可能性が高い樹木はウレタンフォームで被覆したあと、薬剤噴霧をする計画だった。

伐倒した樹木跡は、毎年4月に当財団が実施している植樹祭で植樹した、糺の森原生樹種であるニレ科（ケヤキ、ムクノキ等）の苗木の内、大きく成長したものを移植するとともに、同じく糺の森に自生する日陰に強い常緑樹（ヤブツバキ、モチノキ等）を選択して植栽することになった。

糺の森財団助成金額：七七六三千元

国宝重要文化財防災設備工事

昭和48年設置以来、老朽化著しかった国宝賀茂御祖神社（下鴨神社）本殿以下重要文化財の防災設備工事が3力年の工事を経てようやく完了した。

本工事によって、新設備に見合うエンジンポンプのパワーアップ、炎感知器などの導入による報知設備の充実、防犯カメラやセンサーを新設し総合的に国宝の本殿域が守られることとなった。

そして、去る文化財防火週間の1月28日、左京消防署をはじめ下鴨神社、糺の森財団

鴨川の河原は今日でも、夕暮れとともにアベックがズラリと並んで腰をおろし、その後ろを多くの人たちが川風に吹かれながら涼む光景が見られる。一方、糺の森の涼み場が連日、大賑わいしたというのは、今日では意外に思いかもされない。しかし、江戸時代の絵画や名所記などには、その人気ぶりがよく描かれている。「糺納涼は、みな月十九日より晦日に至るまで、下鴨社頭御手洗川のほとり、神の杜の木陰に茶店を設け、遊宴して炎暑を避るなり」と秋里籬島『都林泉名勝図会』は記している。御手洗川のほとりとあるが、文章に添えた奥文鳴の挿絵は、糺の森の東側を流れる泉川を描き、茶店や川床がその両岸に並び、潺湲と流れる清流の中の川床ではいままさに宴会が真つ盛りという情景である。期間も水無月の下旬に限ったことではなかった。

糺の森納涼は清らかな緑陰の遊宴の地とあって、風流な文人たちに大いに受けた。江戸中期きつての詩人龍草廬も、相国寺の文人僧大典禪師も、鴻儒とたたえられた皆川淇園も、粹な詩人



職員、地域の文化財レスキュー、消防分団等の参加により、刷新された設備を使用し防災訓練が実施された。境内に発火を

知らせるベルが鳴り響き、棟門周辺に設置された新しい消火設備「※ドレンチャージャー」や左京消防署隊員等が一斉に放水を開始。水の幕で社殿を覆った。創建以来、幾度の火災に罹災してきた社殿も、最新鋭の防災設備に保護されることとなり、文化財を後世に伝える体制が整えられた。

本工事は、賀茂御祖神社における防災設備設置後30余年を経て、老朽化の進む設備改修を本社側から文化庁へ働きかけた。関係機関との協議が進められ、平成20年に国庫補助事業としてスタートした。

※ドレンチャージャー

↓火災時に制御弁を開け、圧力水によって水の霧を形成。延焼を防ぐ効果がある。

糺の森財団助成金額：四七九七二千元

重要文化財三井神社棟門・拝殿修理工事

三井神社は国宝本殿の西側、供御所の北側に位置し、奈良時代に編纂された山城国風土記逸文に記される古社で、下鴨神社の第三摂社。現在の社殿は江戸時代の寛永年間造り替えられたもので、今回修理の棟門、拝殿はともに重要文化財に指定され

ともてはやされた中島椋隠も糺の森の涼みに遊んで詩を詠み残した。文化八（一八一）年に京都に上ってきて移り住んだ頼山陽もまたしかりである。『山陽詩集』と『山陽遺稿』に「糺林に遊ぶ」詩が四首収められている。その一首を読んでみよう。

潺湲水石映涼棚
潺湲たる水石 涼棚に映ゆ
残照全消暗緑層
残照 全て消え 暗緑層なる
要看晚流金波碎
看るを要す
晚流 金波砕くるを
未收杯去又呼灯
未だ杯を収め去らず
又た灯りを呼ぶ

涼棚は川床。清らかな小川の流れに映えて、やがて夕日も落ち暗くなる。と、鬱蒼たる森の緑が暗く重なる。それでも帰れない。夜の小川に金波、つまり月がのぼってきて月光が輝くのはまた風情がある。酒杯をおさめきれずに、明かりをともし、いつまでも酒宴は続くのである。

棟門は三井神社の中門で、構造は名称と違い一間葉門とし、屋根は東西の廊下より一段高く切上がる。棟門風に見えるためこの名がついたと思われる。

拝殿は、三井神社本殿と棟門の間に位置し、桁行二間、梁間一間、一重、入母屋造、妻入の構造形式を持ち、全体に歪みが見られ、東北方向に傾いていることから、半解体修理を行い、構造補強等がなされる。何れも松皮葺の葺替え、木部の修理、飾金具の補修を施工している。

本工事は昨年度より始まった国庫補助事業の継続事業であり、平成23年度は言社の修理を行う予定である。

糺の森財団助成金額：二二五〇〇千元



修理前



修理後

他の助成事業

国宝重要文化財賀茂御祖神社環境保全事業（境内雨水排水工事）：四五〇〇千元
重要文化財印社諏訪社小社社白鬚社三井神社東西廊修理工事：二五七五〇千元
重要社殿出雲井於神社拝殿修理工事：一六五一五千元
葵の庭整備工事：二五〇千元
糺の森流鏝馬神事：五〇〇千元

「京都下鴨神社展」(仮称)

日時 7月13日(水)~19日(火)
時間 午前10時~午後6時
場所 名鉄百貨店本館10階
 クローバーサロン
 (名古屋駅前)
参加 無料(自由)

下鴨神社が所蔵する、矛や盾など祭具や屏風、そして装束や資料など、門外不出の社宝を展示する特別展覧会です。普段ご覧いただくことのできない品々が展示されます。この機会に是非ご覧ください。



糺の森文化講演会 平成23年度 夏講座

月日 8月中旬
場所 下鴨神社 **参加** 無料

現在内容については検討中です。決定次第、ホームページやチラシ等でご案内いたします。もう少しお待ちください。

おかげさまで、大盛況！



の森を参加者と一緒に撮影していただきました。

平成22年秋講座 「糺の森の紅葉を楽しむ」

秋の糺の森で多くの方が音楽を楽しめました
「音の森」開催
 春に引き続き秋も「音の森」を開催いたしました。10月はトロンボーン四重奏で「テレマン」4声の「コンチエルト」など、11月は木管四重奏で「イベルン」トリオの「5つの小品」など、そして12月は金管五重奏でクリスマスソングなどが演奏されました。特に12月の11日は京都で一番最後の紅葉時期と重なり、来場された方は大満足の表情をされていました。春は4月から開催いたします。会員様はじめ多くの方々のご来場をお待ちしております。

糺の森文化講演会開催



平成23年春講座 「ナラ枯れ〜森を救え！」

平成23年3月21日に下鴨神社の研修道場において、農学博士の小林正秀氏を講師にお迎えして開催いたしました。「ナラ枯れ」は全国的に広がりをみせている、害虫により樹木が枯れる現象で、京都でも昨年2万本以上が被害にあいました。小林氏は「ナラ枯れ」の研究の第一人者で、当日はその現象や対策など興味深いお話をいただきました。

※糺の森文化講演会は平成23年は夏講座(8月)、秋講座(11月)、平成24年春講座(3月)の開催を予定しています。ご期待ください。



京都新聞で紹介されました

“春の”糺の森コンサート「音の森」

月日 第7回 4月29日(金・祝) 第8回 5月28日(土) 第9回 6月25日(土)
 午後2時~3時(予定)
場所 河合神社(糺の森南側)拜殿 **参加** 無料(自由)

緑あふれる糺の森の中で、ゆったりとした午後の時間を過ごしてみませんか。会場の河合神社は「方丈記」の著者、鴨長明にゆかりの深い神社で、境内には復元された方丈が展示されています。また、鴨長明は大変な琵琶の名手だったとも言われており、音楽にふさわしい会場です。京都市立芸術大学の音楽学部の皆さんが、クラシックを中心にお子様にも楽しめる曲なども交えて演奏いたします。春の一日、美しい調べをお楽しみください。



第21回 糺の森市民植樹祭

月日 4月29日(金・祝)
時間 午前10時~12時
場所 糺の森馬場特設会場

「糺の森」は縄文時代から生き続ける広さ3万6千坪の森で、ケヤキ、エノキ、ムクノキなどニレ科の落葉広葉樹を中心に、古代山代の樹林を構成していた樹種がそのままに自生。原生林の植生を伝える学術的、文化的に貴重な自然林です。この森を守るため、毎年「市民植樹祭」を実施し、多くの方々に植樹をしていただいております。是非ご参加ください。



成木献木

子どもや孫の誕生、結婚30周年など記念に成木を植樹して、森に思い出を残してください。お問合わせ、お申込みは事務局まで。
 献木代:100,000円(1本) ※枯れ保証付き
 事務局:下鴨神社内 ☎075-781-0010 申込:4月20日までお願いします

苗木植樹

ムク・エノキ・カツラなどの苗木を植樹していただきます。どなたでも参加OK。森の育成にご協力ください。
 参加費:1,000円(1名) ※スコップ・花鉢付き 申込:当日9時から会場にて

第21回 螢火の茶会

下鴨神社とお茶は古くから関係が深く、境内には茶屋が開かれていました。また、梅雨時にはほほに痛いほどあたってきただけと言われていましたが、昭和20年代に水の汚染などが原因で絶滅寸前となってしまいました。

そこで森の中の川の整備を進めたことにより、再び昔のように螢が飛び交うようになり、平成3年に明治の納涼茶席を約100年ぶりに「螢火の茶会」として再開いたしました。

裏千家によるお茶席と御手洗池での螢の舞をお楽しみください。

月日 6月11日(土)
時間 午後5時~9時
場所 下鴨神社楼門内

参加方法

- お茶席(橋殿・細殿)
財団会員および招待者のみ参加。会員には案内の上事前申込要。当日入会者も参加可
- 螢鑑賞(境内)
自由。7時半頃に御手洗池に放流。

同時開催 「糺の森納涼市」 **時間** 午後1時~9時 **場所** 楼門前

明治時代の風情の納涼市。京菓子・京漬物・お酒など有名老舗約20店が出店します。お買物をお楽しみください。

